

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/02

ECBによる追加利上げ観測がカギに

通貨ペア		ページ数	
基調			
<a href="#">ユーロ/円</a>	➔	ユーロ高継続もドル円次第では・・・ 予想レンジ: 118.40 ~ 123.30 円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➔	欧追加利上げと米緩和長期化 予想レンジ: 1.4600 ~ 1.4980 ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	➔	毎日の英イベントを要チェック 予想レンジ: 133.00 ~ 138.50 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	➔	弱い英指標が目立てばポンド安も 予想レンジ: 1.6450 ~ 1.6950 ドル	8-9
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 4/25~29までの主な推移



<p><b>4/26</b> Tuesday</p>	<p>前日の海外株価の下落を嫌気した日経平均株価の下落や、原油価格の下落を背景にリスク回避のユーロ売り・円買いが強まるとユーロ/円は118.49円の安値を付けた。トリシェ欧州中銀（ECB）総裁がフィンランド紙とのインタビューで「インフレ期待が抑制不能になりつつあるとは思わない。強いドルは米国の利益、との認識を完全に共有している」などと発言したこともユーロ売り材料となった。（①）しかし、その後原油価格が反発した事や、好調な米企業決算を手掛かりにNYダウ平均株価が100ドル超の上昇となった事を受けてリスク回避の動きが後退するとユーロ/円は119.88円まで反発した。</p>
<p><b>4/27</b> Wednesday</p>	<p>格付け会社S&amp;Pが日本の格付け見通しの引き下げを発表すると、円全面安の展開となった。さらに、米連邦公開市場委員会（FOMC）で、保有証券の償還資金については米国債購入への再投資継続を表明するなど、緩和的な金融政策の維持が示された事を受けて、ユーロ買い・ドル売りが加速すると、対円でもユーロ買いが優勢となり、ユーロ/円は121.41円まで上昇した。（②）</p>
<p><b>4/28</b> Thursday</p>	<p>前日の米FOMCで、緩和的な金融政策の長期化観測が高まった事に加え、日経平均株価や原油価格が上昇した事を受けてユーロ高・ドル安が進行すると、ユーロ/円でもユーロ買いが優勢となり、121.81円の高値を付けた。（③）しかし、日銀金融政策決定会合で、西村副総裁が提案した追加金融緩和策が反対多数で否決された事などが材料視され、円が全面的に上昇すると、ユーロ/円も下落に転じた。</p>

### 上昇要因（ユーロ高・円安）

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・（本邦及びG7による）円売り介入

### 下落要因（ユーロ安・円高）

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 今週の見通し

先週のユーロ/円相場は118.49円～121.81円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.8%の上昇（ユーロ高・円安）となった。今週は、ユーロ圏では5日に欧州中銀（ECB）による政策金利の発表とトリシェ総裁の会見が行われ注目が集まる。今回の会合での追加利上げは見送られる公算だが、市場では6月の追加利上げ観測が根強く、トリシェ総裁が追加利上げに否定的な見解を示さない限り、ユーロは堅調を維持する可能性が高いだろう。インフレに対する「非常に注意深く監視」の姿勢を「強い警戒」に引き上げるなどの変更があれば、ユーロが一段高となる場面も予想される。ただ、米国では、6日に4月雇用統計が発表され、非農業部門雇用者数では3月に比べ増加幅が縮小すると見られている。米雇用市場の伸び悩みは金融緩和長期化観測からドル売り材料となり、ユーロ/ドルの上昇につながりやすい一方で、ドル/円の下落材料となりやすいため、ユーロ/円の上値を抑える可能性がある。（神田）

（予想レンジ：118.40～123.30円）

## テクニカル分析



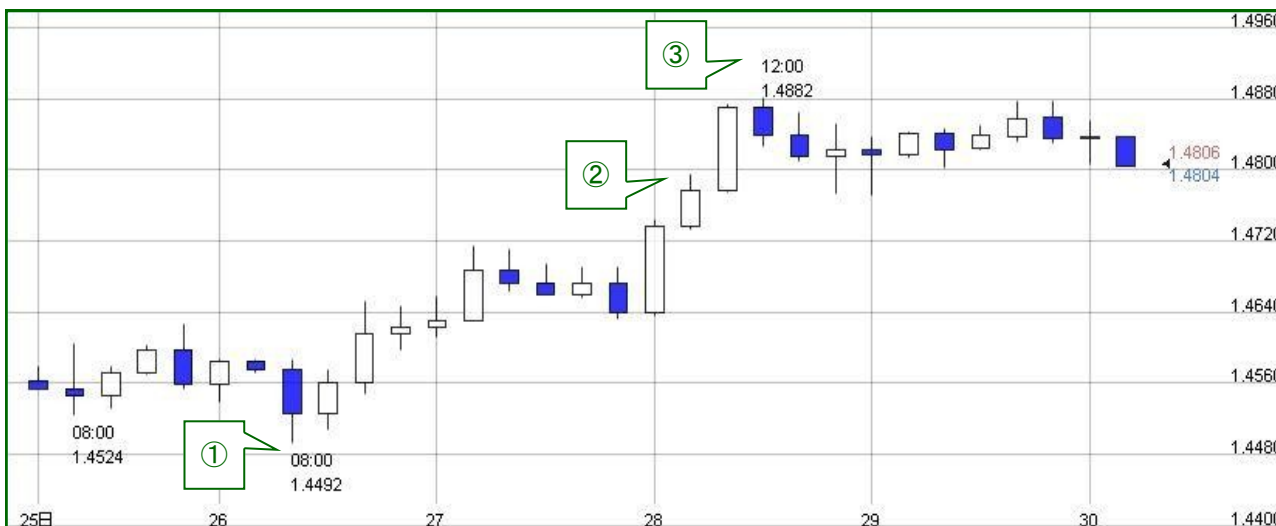
●ユーロ/円 4/29週足引値：120.06円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円（8/24）を安値、115.97円（3/04）を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇している。先週のユーロ/円は118.49～121.43円のもみ合い推移となった。ちょうど120円を挟んで±1.50円といったところだ。取引値は60日線（116.08円、4/29）、200日線（112.74円、4/29）、を上回るが、20日線（120.29円、4/29）と交錯する動きとなっている。ボリンジャーバンドは4/29現在、上限：122.99円～下限：117.60円で、バンド上限が下落、下限は上昇してバンド幅は縮小している。もう暫くのもみ合いを経てから方向感が出ると思われる。目先は118～121円のようなレンジになるのかもしれない。超長期の相場ではまだ下落が終了したとは思っていない。

上値ポイントは、①123.33円（4/11高値）、②126.31円（139.22円と105.42円の61.8%戻し）であり、下値ポイントは①118.43円（113.53円＜3/24安値＞⇒123.33円＜4/11高値＞の半値）、116.47円（4/18安値）、③115.97円（3/04高値）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 4/25~29までの主な推移



**4/26**  
Tuesday

前日の海外株価の下落を嫌気した日経平均株価の下落や、原油価格の下落を背景にリスク回避のユーロ売り・ドル買いが強まるとユーロ/ドルは1.4492ドルの安値を付けた。トリシェ欧州中銀(ECB)総裁がフィンランド紙とのインタビューで「インフレ期待が抑制不能になりつつあるとは思わない。強いドルは米国の利益、との認識を完全に共有している」などと発言したこともユーロ売り材料となった。(①)しかし、その後原油価格が反発した事や、好調な米企業決算を手掛かりにNYダウ平均株価が100ドル超の上昇となった事を受けてリスク回避の動きが後退するとユーロ/ドルは1.4658円まで反発した。

**4/27**  
Wednesday

米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えてこれまで売られていたドルを買い戻す動きが強まり、ユーロ/ドルが弱含む場面もあったものの、その後発表されたFOMCで、大方の予想通り、保有証券の償還資金については米国債購入への再投資継続を表明するなど、緩和的な金融政策の維持が示された事を受けて、ユーロ買い・ドル売りが再び強まった。史上初めて行われた米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の会見でも、2011年の成長率鈍化など、米国経済の先行きに慎重な見方を示した。これを受けてユーロ/ドルの上昇が加速し、1.4796ドルまで上昇した。(②)

**4/28**  
Thursday

前日の米FOMCで、緩和的な金融政策の長期化観測が高まった事に加え、日経平均株価や原油価格が上昇した事を受けてユーロ高・ドル安が進行すると、ユーロ/ドルは1.4882ドルの高値を付けた。(③)その後米第1四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+1.8%と予想(+2.0%)を下回り、新規失業保険申請件数が42.9万件と予想(39.5万件)を上回るとドル売りが強まる場面もあったが、金や原油などの国際商品価格が、利益確定の売りを浴びて急落すると、ドル買いが優勢となり、ユーロ/ドルは1.4771ドルまで反落した。

### 上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

### 下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## EUR/USD

## 今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4492～1.4882ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.7%の上昇（ユーロ高・ドル安）となった。今週は、5日にユーロ圏で欧州中銀（ECB）による政策金利発表、6日には米4月雇用統計と重要イベントが予定されている。ECBは、今回は政策金利を据え置くとの見方が大勢を占めているが、6月には追加利上げを行うと見られている。声明で、インフレに対する「非常に注意深く監視」の文言を「強い警戒」に変更するなど、追加利上げに前向きな姿勢を示せば、ユーロ高・ドル安が加速する可能性もある。一方、米4月雇用統計の非農業部門雇用者数は、事前予想では3月に比べ増加幅が縮小すると見られている。米新規失業保険申請件数が3週連続で40万人を超えて増加傾向にあることから、大幅な雇用の伸びは考えにくく、改めて金融緩和長期化観測につながる可能性がある。ただ、シカゴIMM通貨先物の取組によるとユーロの買い持ちは2007年12月以来の水準に積み上がっており、ECBの追加利上げ観測後退や、米雇用統計の大幅改善などがあれば、急速にユーロ売り・ドル買い戻しが進む可能性もあり注意が必要であろう。（神田）

（予想レンジ：1.4600～1.4980ドル）

## テクニカル分析

〔移動平均線〕  
 20日線 60日線 200日線  
 〔ボリンジャーバンド〕  
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 4/29週足引値：1.4804（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）  
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234（2000/10安値）と1.6037（2008/07高値）の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒4/21高値1.4877となっている。

現状の取引値は20日線（1.4481、4/29）、60日線（1.4077、4/29）、200日線（1.3566、4/29）よりも上値に位置する。先週は1.4492～1.4877のレンジでの取引となった。4/18に安値1.4156を見たが、そこから500ポイントの大幅な上昇を見た。ボリンジャーバンドは4/29現在、上限：1.4848～下限：1.4114であり、取引値がバンド上限を押し上げて上昇し、下限も上昇が続いている。ユーロは上昇相場の中にあり、先週は大幅な上昇を見た。相当大きな買いが出て上昇している。ここまで上昇し、1.50を見るとの声も大きくなってきた。慎重なユーロ・ロング戦略で、逆に大きな上ヒゲ等が出る際には、上昇狙いが失敗した際の下落を狙うべきところ。上値ポイントは①1.4950（為替オプションの防戦売りがあると見られる箇所）、②1.50、③1.5145（2009/11高値）、下値ポイントは①1.4481（20日線、4/29段階）、②1.45である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 4/25~29の主な推移



<b>4/25</b> Monday	日経平均株価が上昇したことなどを受け、ポンド/円は東京午前中に135.91円まで上昇したが、その後は上値が伸びず、その後にNYダウ平均や原油価格が下落する中でポンド/円は下落。NY市場の引けにかけては米国債利回りの低下を背景とするドル/円の下げに連れて、ポンド/円は135円を割り込んだ。(①)
<b>4/27</b> Wednesday	早朝に仕掛けた動きの中で134.07円の安値をつけるも134円台前半では底堅く、すぐに反発。欧州市場序盤に「17時30分発表の英第1四半期GDP・速報値が予想を下回る前期比+0.3%になる」との噂が広がると、ポンドは売り優勢となったが、実際に発表されたGDP・速報値は市場予想通りの+0.5%だったことから、ポンド/円は136円台まで急騰した。その後もジリジリと値を伸ばし、NY引け間際に136.69円まで値を伸ばした。(②)
<b>4/28</b> Thursday	前日に米連邦公開市場委員会(FOMC)や米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見を受けて広がった米超低金利政策の長期化観測を背景に、この日の東京市場でもポンド/ドルが上昇すると、ポンド/円も連れ高となり、137.01円の高値をつけた。(③)しかし、日銀金融政策決定会合で、西村副総裁が提案した追加金融緩和策が反対多数で否決された事などが材料視され、円が全面的に上昇すると、ポンド/円も下落に転じた。

### 上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

### 下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/JPY

## 今週の見通し

今週の英国はとにかくイベントが多い。2日はメーデーの祝日だが、3～5日にかけては4月PMIが連日発表される他、4日にはイングランド銀行(BOE)の政策金利発表、6日には4月生産者物価指数の発表が予定されている。BOEの政策金利については4月に広がっていた5月利上げを支持する市場参加者はほとんどいなくなっており、今回利上げに踏み切る可能性はかなり低いと言えるだろう。BOEは金融政策の変更が無い場合、声明文の発表もないことから、ポンド相場で手掛かり材料視されないと見られるが、依然として強いインフレ懸念が意識される中、生産者物価指数には注目が集まると考えられる。今週のポンド/円はこれら経済イベントによって英国のファンダメンタルズを確認しながらの取引となりそうだが、この他、米国では雇用統計の発表週でもあることから、米国経済指標の結果を受けたドル/円、ポンド/ドル、株価、原油価格などもポンド/ドル相場に影響を及ぼすと見られるため、これらの動きにも気を配っておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 133.00~138.50円)

## テクニカル分析



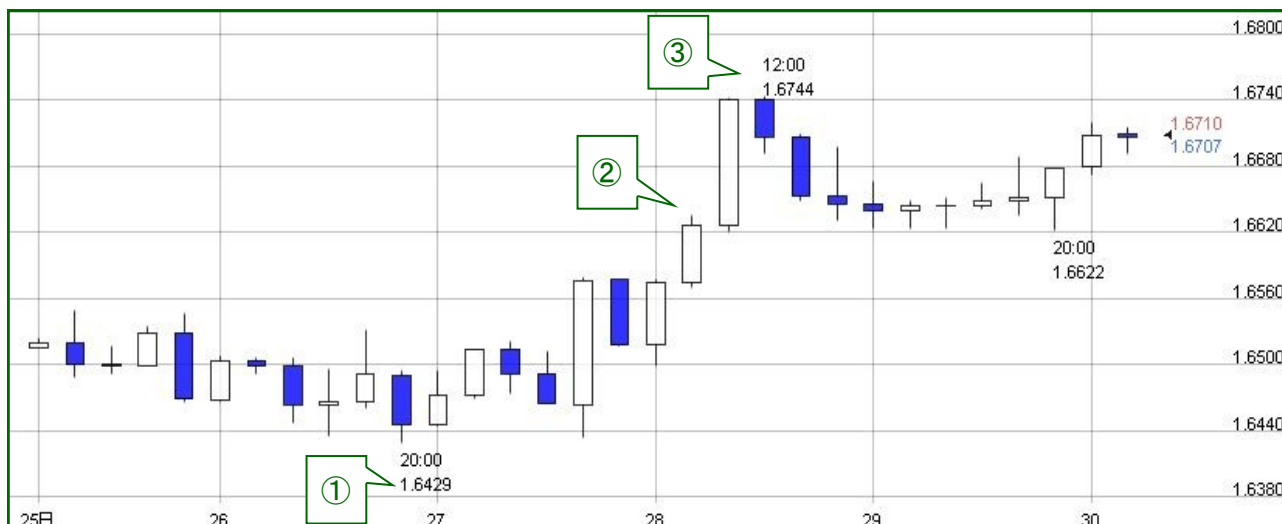
●ポンド/円 4/29週足引値: 135.47円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)  
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。今後は上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的な流れでは依然として下落のように見える。

先週のポンド/円は4/18に安値132.99円を付けて後、緩やかな戻り上昇の動きとなった。現状では、60日線(133.83円、4/29)、200日線(132.06円、4/29)を上回っているが、20日線(136.19円、4/29)と交錯している。ボリンジャーバンドは4/29現在、上限: 139.39円~下限: 133.00円であり、バンド上限は下落、下限は上昇しており、バンド幅は縮小している。133~137円くらいのもみ合いとなると見られるがここからは上伸力も乏しく、戻り下落狙いとも取れるところ。上値ポイントは①140.00円(4/08高値)、②140.58円(2010/5/10高値)、③140.90円(163.04-118.76の半値)であり、下値ポイントは①133.83円(60日線、4/29段階)、②132.99円(4/18安値)、③132.06円(200日線、4/29段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンド/ドル 4/25~29の主な推移



**4/26**  
Tuesday

日経平均が朝に軟調に推移すると、ポンド/ドルは下落。しかし夕方に入り、時間外のNYダウ平均先物や原油価格が反発したことを受け、ポンド/ドルは1.6531ドルまで上昇した。ただ、18時に発表された欧州連合(EU)加盟国の2010財政赤字が対国内総生産(GDP)比10.4%と高水準だったことや、19時に発表された4月CBI製造業受注指数が-11と、予想(+2)に反して弱い結果だったことなどを嫌気してジリジリと値を下げ、1.6429ドルの安値を付けた。(①)ただし、好調な米企業決算などを背景にNYダウ平均が大きく上昇すると、ポンド/ドルは再び反発した。

**4/27**  
Wednesday

欧州序盤に「17時30分発表の英第1四半期GDP・速報値が前期比+0.3%になる」との噂が広がると、ポンド/ドルは1.6434ドルまで下落した。しかし、実際に発表されたGDP・速報値は市場予想通りの+0.5%だったことからポンド/ドルは急騰し、1.65ドル台後半まで値を伸ばした。その後、25時30分の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明の発表前後に1.65ドルを僅かに割り込む場面も見られたが、この声明の内容や、27時15分から開催された米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「基調インフレは抑制されている」「第1四半期GDPは比較的弱いと予想」「行動の前には2~3回の会合があるだろう」などと発言したことなどをを受けて米国の超低金利政策の長期化観測が広がり、ポンド/ドルは1.66ドル台までドル安・ポンド高が進んだ。(②)

**4/28**  
Thursday

前日の米FOMCで、緩和的な金融政策の長期化観測が高まった事に加え、日経平均株価や原油価格が上昇した事を受けてポンド高・ドル安が進行すると、ポンド/ドルは1.6744ドルまで上昇した。(③)その後米第1四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+1.8%と予想(+2.0%)を下回り、新規失業保険申請件数が42.9万件と予想(39.5万件)を上回るとドル売りが強まる場面もあったが、金や原油などの国際商品価格が、利益確定の売りを浴びて急落すると、ドル買いが優勢となり、ポンド/ドルは1.6624ドルまで反落した。

### 上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

### 下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## 今週の見通し

今週は英米共にイベントが多い。米国は6日の4月雇用統計に向けて雇用関連指標や4月ISM景況指数(製造業・非製造業)が予定されている。また、英国は2日は祝日だが、3～5日にかけては4月PMIが連日発表される他、4日にはイングランド銀行(BOE)の政策金利発表、6日には4月生産者物価指数の発表が予定されている。これら英米の経済イベントをそれぞれ見比べて、今週のポンド/ドルは取引される見通しだ。BOEの政策金利については4月に広がっていた5月利上げを支持する市場参加者はほとんどいなくなっており、今回利上げに踏み切る可能性はかなり低いと言えるだろう。BOEは金融政策の変更を無い場合、声明文の発表もないことから、ポンド相場で手掛かり材料視されないと見られるが、依然として強いインフレ懸念が意識される中、生産者物価指数には注目が集まると考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6450~1.6950ドル)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕  
 20日線 60日線 200日線  
 〔ボリンジャーバンド〕  
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 4/29週足引値:1.6707(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)  
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先週4/28に直近高値1.6744を見ている。

取引値は20日線1.6394(4/29)、60日線1.6228(4/29)、200日線1.5886(4/29)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは4/29現在、上限:1.6694~下限:1.6094であり、バンド幅の上限は取引値が押し上げる形で上昇し、下限は横這いである。ポンドはユーロ/ドルの動きに引っ張られて上昇する動きとなっている。上昇の足取りがあまり綺麗でなく、本質的にそれほど強いとは思えないが、勢いで上昇している。ユーロ/ドル次第だが、ユーロが調整的下落になればポンドも1.62を見るとみられる。目先の上値ポイントは①1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6394(20日線、4/29段階)、②1.6228(60日線、4/29段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/2～5)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/2			<b>ロンドン、香港、南ア休場(メイデー)</b>		
(月)	10:30		(豪)第1四半期住宅価格指数[前期比]	0.7%	-0.5%
	16:15		(スイス)3月実質小売売上高[前年比]	1.5%	--
	16:30		(スイス)4月SVME購買部協会景気指数	59.3	59.8
	23:00	◎	(米)4月ISM製造業景況指数	61.2	59.6
			(米)3月建設支出[前月比]	-1.4%	0.3%
5/3			<b>東京休場(憲法記念日)</b>		
(火)	13:30	○	(豪)RBAキャッシュターゲット	4.75%	4.75%
	17:30	○	(英)4月PMI製造業	57.1	57
	18:00		(ユーロ圏)3月生産者物価指数[前年比]	6.6%	6.5%
	18:30		(南ア)第1四半期失業率	24.0%	--
	23:00		(米)3月製造業受注指数[前月比]	-0.1%	1.5%
5/4			<b>東京休場(みどりの日)</b>		
(水)	07:45		(NZ)3月住宅建設許可[前月比]	-9.7%	--
	17:30	○	(英)4月PMI建設業	56.4	55.4
	17:30		(英)3月消費者信用残高	+8億GBP	+5億GBP
	17:30		(英)3月マネーサプライM4・速報[前年比]	-1.5%	--
	18:00	○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前月比]	-0.1%	0.1%
		○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前年比]	0.1%	0.2%
	21:15	◎	(米)4月ADP全国雇用者数	+20.1万人	+20.0万人
	23:00	◎	(米)4月ISM非製造業景況指数	57.3	58
5/5			<b>東京休場(こどもの日)</b>		
(木)	07:45	◎	(NZ)第1四半期失業率	6.8%	6.7%
	10:30	○	(豪)3月小売売上高[前月比]	0.5%	--
	10:30		(豪)3月住宅建設許可件数[前月比]	-7.4%	--
	17:30	○	(英)4月PMIサービス業	57.1	55.8
	19:00		(独)3月製造業受注[前月比]	2.4%	--
	20:00	◎	(英)BOE政策金利発表	0.5%	--
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.3%	--
	21:30	○	(米)4/30までの週の新規失業保険申請件数	--	--
	21:30		(米)第1四半期非農業部門労働生産性[前期比]	2.6%	1.0%
	21:30		(米)第1四半期単位労働費用[前期比]	-0.6%	0.8%
	21:30		(加)3月住宅建設許可[前月比]	9.9%	--
	23:00	○	(加)4月Ivey購買部協会指数	73.2	--

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/6)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/6	08:50		(日)4月マネタリーベース[前年比]	16.9%	--
(金)	14:45		(スイス)4月失業率	3.4%	3.3%
	17:30	○	(英)4月生産者物価指数[コア:前年比]	3.0%	3.0%
	19:00		(独)3月鉱工業生産[前月比]	1.6%	--
	20:00	◎	(加)4月失業率	7.7%	7.7%
	20:00	◎	(加)4月雇用ネット変化	-0.15万人	+1.50万人
	21:30	◎	(米)4月非農業部門雇用者数	+21.6万人	+18.0万人
	21:30	◎	(米)4月失業率	8.8%	8.8%
	28:00		(米)3月消費者信用残高	+76.17億USD	+50.00億USD

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com